

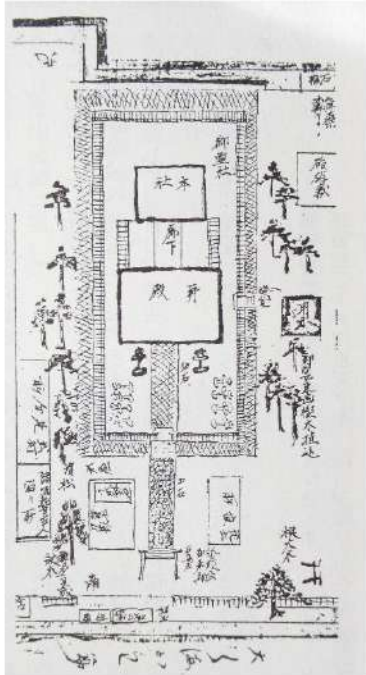
文字摺通信

第 73 号
2024年10月 1日
発行:文字摺歴史文化社

4年目突入記念増ページ特大号

安永4年(1775)福島藩主板倉勝矩 奉納の絵馬についての短い考察

福島藩主が城下の寺社に奉納した絵馬が28枚残っている。うち、1枚は堀田正虎により、他の27枚は板倉氏(初代重寛から10代勝顕までのうち7人)によって奉納された絵馬で、いずれも福島市の



【御霊社図(『略記附図』)】

有形民俗文化財に指定されている。絵馬が現存するのは6か寺社であるが、藩祖重昌公を



【安永4年奉納 黒沼神社蔵「鷹図」絵馬】

を祀る板倉神社はその一つである。そもそも板倉神社は、8代藩主勝長が寛政4年(1792)に三河から江戸藩邸に勧請したものを文化2年に福島城本丸に遷宮しはじめ城内稻荷社に安置し、同年霊社を創建して遷宮し御霊社と呼んでいた(左図)。しかし明治2年に板倉氏が三河へ移封とともに三河重原へ移した。御霊社の社殿は残っていたが、県庁新築の計画がたてられ、その存在が危うくなったため、明治15年に福島城跡の紅葉山に分霊して社殿を建てて板倉神社となったものである。現在板倉神社にある絵馬は、寛政5年奉納の「二人童子の酒盛りの図」と天保8年奉納の「静御前図」の2枚であるが、寛政5年に奉納された時には板倉神社は存在しなかったのであるから、当初から板倉

神社に奉納されたものではないのは勿論である。そして、明治2年から明治15年までは板倉氏関係の神社は福島はなかったのである。では、板倉神社所蔵の寛政5年の絵馬はどこに奉納されたのであろうか。そして板倉氏が三河に移された明治2年から福島城跡紅葉山に板倉神社が創建される明治15年までの間、これらの絵馬はどこに収められていたのであろうか。この記事の末尾に現存する歴代藩主奉納絵馬の一覧表を付けたので、表を参照しながら以下を読んでいただきたい。

そうした疑問があった中、福島市史資料叢書第60輯『政事集覧』を読んでいて面白い記述があった。

安永4年(1775)のところに次の記述がある。

とても良いことだと思います。子どもたちが、地域の大人たちと楽しそうに水をかけあっていました」と続けました。行事の意義については、だんだんと子どもたちも理解してくると思います。まずはやってみることだと思います。今回、若連の発案で行われたこと、それを行政が外に向けて大いに発信することが大事です。周囲がその継承の価値を顕彰することで、やっている人たちが、自分たちの行事の価値を再認識できるのです。そういう意味で行政が「市政だより」や町の広報誌、ネットなどでレポートすることが必要です。民俗芸能や年中行事は、保存会だけの努力では継承できないと思います。地域や学校や行政の協力が必要です。

※編集後記兼近況報告兼私憤公憤※

☆創刊当時はなんとか、せめて、三号雑誌までは・・・、と思って始めたのですが、皆様からのご支援（毎回のようにメールをいただきました。励みになっています）のお蔭で何と4年目に突入することができました。ここまで来ると次の目標は「目指せ！100号」です。頑張ります。

☆9月初めに米沢市の上杉神社へ行ってきました。4月に中條精一郎設計の上杉伯爵邸の写真撮影に行ってきた以来、今年度2度目の訪問でした。ここで面白いボランティアガイドの在り方を見ました。市民ボランティア紙芝居です。看板が2枚あり、赤字で「無料」とあり、もう一枚には、「退席自由」とあって、その下に紙芝居のタイトル「上杉四代」（各10分）、「鷹山公物語」（30分）とありました。聴衆は若い女性2人とおじさんの3人、熱心に紙芝居を見ていました。名所のボランティアガイドの在り方として、紙芝居というのを初めて知りました。面白い試みだと思います。



「無料」・「退席自由」というのが良いですね。

時間の制約もあり、ボランティア紙芝居おじさんに話を聞くことができませんでしたが、こういうやり方も学ぶ必要があると思います。



☆前回は奥羽本線普通列車で行った米沢ですが、今回は知人の自動車で行きました。初めて東北中央自動車道路を使いました。新栗子トンネルは、全長8972mという無料のトンネルとしては日本最長とのこと。それにしても片道一車線のトンネルは怖いですね。事故車があった時、交通止めになったら閉じ込められてしまうのでは、という恐怖はぬぐえませんでした。なお、このトンネルの長さは《 $8 \times 9 = 72$ ハックナナジュウニ》と覚えるそうです。

『～ふくしまの歴史と文化財～文字摺通信』第73号 令和6年10月 1日（火）発行
発行：文字摺歴史文化社 代表：守谷 早苗

